

■防災“も”まちづくり研究所「名誉研究員」認定証書授与 & 宣言書

ワークショップの間、防災“も”まちづくり研究所の研究員として、活動してきた参加者に「名誉研究員」としての認定証書が贈られました。

「名誉研究員」とは、次、研究員になる人に、きちんと教えられる能力のある研究員、という意味で、この活動や、得た知識を伝えていってほしいという思いが込められています。

認定証書には、各自が作成した「宣言書」も貼り付けられています。



名誉研究員に手渡された認定証書

授与の様子

■参加者の感想（※感想カードより抜粋）

中学1年	ポスターは、できれば、学校で掲示します。今まで学んできたことを広めていきたいと思います。
中学1年	現在のまちの状況や災害に関することを深く考えたことは、あまりなかったので、新しく知ることがたくさんありました。また、実際に見て歩くこともして、さらに考えを深めることができました。自分で考えたり、まとめたり、話し合ったりもして、頭から知恵をしぼりだしました。でも、話がどんどん進んでいくことに喜びも感じられました。
中学1年	防災の怖さを実際に体験することでわかったと思う。まち歩きをしてみて6年間通ってきた道なのに、消火器のある位置を知らなかったのもう少しわかりやすくする必要があったと思う。全4回を通して、思考力が高まったと思う。
中学2年	とても濃い話し合いや活動ができたと思います。年齢関係なく、たくさんの意見が聞け、色々なことを考えているのだなと実感させられました。これから自分たちが、いかに地域で活動できるかが、防災でも重要になっていくとおもいます。自分の弟や、その友達にも伝えられれば、どんどん取り組みの輪も広がります。この経験を放置せず、生かしていけるようにしたいです。
中学1年	はじめ、ワークショップに入る前は、あまり防災には興味がなく、ワークショップも話しなどを聞くだけだと思っていましたが、ワークショップも、家が燃えると、どのようになるのか、目で見て、ブロックが倒れたらどうなるのかも体験したり、班の人とまちを歩いたり、防災対策などを話していくうちに防災への関心も高まり、ワークショップもとても楽しいもの(思い出)となりました。この経験を今後に生かしていきたいです！
中学1年	危ないところや、安全な場所など、たくさんのことを知ることができました。今回学んだことを忘れず、たくさんの人に伝え、地域の力になれると良いなと思います。ありがとうございました。
中学1年	今まで、地域の防災訓練に参加した事がなく、大切さをたいして分らなかったのですが、全4回のワークショップを通して、自分が変化していきました。これからこのように集まって、話し合う場は、少ないと思いますが、このいい経験をした僕が、まだ防災を知らない方へ教え、伝える事が出来るといいです。
自治会	ワークショップ4回で、防災に関する意識は高まったと思うので、それを実行にうつす形で続けていきたい。

■加藤先生のお話

話し合った「イチオシ企画！」は、是非それぞれが取組を始めて頂きたいと思います。

今回の取り組みが、松林地区の常識になり、さらにこの地域の文化となり、住みやすく、文化水準も高く、防災の仕組みもまちの中に組み込まれている、そういう地域になって頂きたいと思います。

今日でワークショップは最終回となりましたが、本当は、これからがスタートです。ぜひ、頑張ってください。



自助（個人）・共助（地域）の視点から防災まちづくりについて考えてみませんか？

松林地区「防災都市づくりワークショップ」ニュース Vol.4



さあ、「防災“も”まちづくり」はじめよう

茅ヶ崎市では、東京大学生産技術研究所の加藤孝明准教授のご協力のもと、平成21年度から「防災都市づくりワークショップ」を実施し、地域みなさんと一緒に災害に強い都市づくりを進めております。

今年度は、松林中学校の生徒の皆さんをはじめ、松林地区の皆さんと一緒に「東京大学加藤研究室附属 松林地区防災もまち

づくり研究所」を設立（5つの研究室に分かれて活動）し、全4回のワークショップを実施してきました。

平成28年3月13日（日）に開催された第4回目のワークショップでは、研究室ごとに「イチオシ！企画」の具体的な実施内容を検討しました。その他の「防災“も”まちづくり」の取組アイデアも「アクションプログラム」にまとめました。

～第4回 松林地区「防災都市づくりワークショップ」で行ったこと～

＜はじめに＞
第3回目のおさらい

＜発表＞
検討結果の発表

＜グループワーク①＞
「イチオシ企画！」の実施計画をつくろう！

＜まとめ＞
宣言書作成
「名誉研究員」認定証書の授与
閉会のあいさつ

＜グループワーク②＞
「アクションプログラム」を具体化しよう！

■防災都市づくりワークショップを終えて・・・

このワークショップを通じて、中学生の皆さんが非常に真剣に取り組んでくれているということや、皆さんから教わらなければいけないことがたくさんあると感じました。

やはり、中学生は地域にとっても最大限の力になってくれるし、非常に頼りにしています。中学生の皆さんには、我々地域の人間がそういう風に考えていると思っていただければと思います。

ワークショップでまとめた「アクションプログラム」についても継続的に地域も関わっていきたいと思いますので、これからもよろしくお願い致します。本当に色々ありがとうございました。



松林地区
自治会連合会
細田会長

■「イチオシ企画！」の実施計画

第3回目のワークショップで各研究室が考えた「イチオシ企画！」（すぐやる事）を、ワークショップ後に実施するために、具体的に“いつ実行するのか”、そのために、“誰が”“どのように”“何をするのか”検討しました。また、4月以降に実施することについては、後輩や他の生徒にどのように引き継いでいくか検討しました。

松林地区 防災まちづくり研究所 防災対策室		研究員名： 中村、島崎、飯野、奥村、笠川			
イチオシ企画！ 学校の方で、街頭消火器の箱の色塗りボランティアを募集する					
日程	実施事項 (できるだけ具体的に書く)	誰が			
		中学生	学校	家庭	地域
生徒会の日程が合う日 新入生が来てから ⇒4月中旬に募集 4月末しめ切り	- 回覧板チーム(まちづくり推進室)と連携して家庭と地域にも募集&宣伝を行う ⇒卒業式の後や中央委員会の後などに案内を作成 - 生徒会が行っている「目安箱」の「募集」のところで色塗りボランティアを集める (位置、人数を確認し) ⇒防災対策室にて、地区分け、リーダー決めを行う。	●	●	△	
【初回】 5月上旬に歩く(探す)	- マップ(マップdeちがさき)をプリントして地区グループごと等に分け、消火器を見て回る。 ⇒様子、位置を記録 ⇒ 実施したことを防災対策室に報告してもらう - 色の薄い消火器の数と、位置を確認しておく(全部で249台ある)	●			?
【最終回】 テストとかぶらない春から夏にかけてのどこか(できればテスト後が良い)	- ボランティアの人(地域の人)と共に実際に色を塗る - 報告はいつだろう?	●			?



4月中に、生徒会の目安箱でボランティアを募集します！回覧板で家庭や地域の人にも呼びかけます。
5月中に「マップdeちがさき」を活用して消火器の状況を確認して、春から夏にかけて色塗りを実施していきます！

松林地区 防災まちづくり研究所 地域計画室		研究員名： 滝山、田村			
イチオシ企画！ 防災について意識を高めてもらう					
日程	実施事項 (できるだけ具体的に書く)	誰が			
		中学生	学校	家庭	地域
【防災アンケートの実施】	- 学校で配布 ⇒ 生徒が実施(試行) ⇒ 家族に依頼 ⇒ 生徒と大人の意見を比較 - アンケートは、生徒会や学級委員が作成する - 半年に1回程度の期間で、継続して実施 - アンケート結果を、自治会の掲示板、広報誌で広報してもらい、幅広い世代で見ってもらう	●	●	●	●
【防災訓練の実施】	3月18日に「防災交流会」(1,2年生対象)があるが、まだ機会が足りない - イベントと一緒に実施する(練習時間が必要) - 吹奏楽部や合唱部が防災テーマソングをつくる。 - 部活のイベント(3月に行う「文化活動発表会」) - 地域のひとと協力し、体育祭やマラソン大会、地域の運動会で、例えばバケツリレーなどを実施する - 楽しい方法で学べるようにする、色々なことを幅広くできるようにする				



まず、学校でアンケートを実施してみます。その後、家庭にも配布してみます！アンケートは、生徒会や学級委員が半年に1度は実施し、継続していきます。
学校のイベントと連携し、防災に関することを知ってもらえると良いと思います。

「イチオシ企画！」 実施計画



3月14日に、みんなで集まって、原稿を作ります。内容は、「耐震とは何か」「耐震の必要性」「耐震している人としていない人の違い」「紙ぶるるについて」などを考えます。
回覧板と同じものを学校でも配布して各家庭に伝えたいと思います。

松林地区 防災まちづくり研究所 まちづくり推進室		研究員名： 鈴木、梅田、越水、高橋			
イチオシ企画！ 回覧板で耐震対策を呼び掛ける					
日程	実施事項 (できるだけ具体的に書く)	誰が			
		中学生	学校	家庭	地域
【今日】	- 文字を少なく、わかりやすく作る。⇒ 絵は鈴木くん担当 - 役割分担 ⇒ 今日、A3用紙を持ち帰り、各自作成 ⇒ 明日(3月14日)に持ち寄ってまとめる。 タイトル 耐震とは？ 耐震の必要性 紙ぶるるについて 紙面レイアウト	●			●
【1回目打合せ】 3月14日 14:30~	- どうやって目をひきつけるか - 原稿完成	●			●
【2回目打合せ】 3月22日(予備日)					
【4月1日】	- 回覧板配布(松林地区 9地区) - 以降、学校でプリントで全校に配布して、各家庭に伝えるようにする - コピーは地域で実施				●



4月~5月にストーリーづくりとメンバーを決めます。
6月から7月には、練習をして、必要なものがあれば小道具も作っていきましょうと考えています。
今年に限らず、台本を引き継いで、毎年続けていければ良いと思います。

松林地区 防災まちづくり研究所 地域福祉室		研究員名： 宮澤、高橋			
イチオシ企画！ 小学生から大人まで楽しめる劇！					
日程	実施事項 (できるだけ具体的に書く)	誰が			
		中学生	学校	家庭	地域
【4~5月】	- ストーリーづくり - メンバーを決める - メインテーマは、「小学生から大人まで楽しめる！」 - 伝える内容は、「災害の前後でやっておくこと」は何かを伝える ↓ ＜家族での話し合いを舞台とする＞ 自分で行うこと ⇒ ・食べ物と水をいつも持つておく 助けてほしいこと ⇒ ・要支援者(障害者は一人で避難することが大変)を支援することの大切さを伝える。 ・家族、近所の人、自治会との関わり方 ・人の運び方、手当の方法を知ってもらう				
【6~7月】	- 練習期間 - 小道具作り				
【8月】夏まつり	発表！				

4月以降も継続して取り組んでいくためには・・・
(自分自身の関わり方、学校生活での取り組み方、後輩たちへの引き継ぎ方など)

- 台本を引き継ぐ、残しておく
- 役割分担をしっかりとやる(台本担当、小道具担当など)
- 密に集める(週1回が理想)

■これが各研究室の「アクションプログラム」だ！

地域協働推進室は、これまで中学生の皆さんが研究室ごとに話し合ってきたことを持ち寄って、地域としてどのように関わっていくかを話し合いました。
地域で協働するためには、お互いの情報を共有しなければいけない。そこで、地域としては、地域の年間行事の予定を学校側にお知らせし、学校からは学校行事の予定をいただいて、すり合わせていきたいと思います。
また、防災ワークショップを継続して実施していく必要があると思います。



研究室	実施事項	現在	2～3 年以降	5～6 年以降
地域協働推進室	大人対象アンケート	・質問事項は生徒が考えたものを使用 ・中学生が発案したものであることを伝達	—	—
	移動式ホース格納箱訓練	・中学生に参加してもらう ・校長・教頭と話し合いながら進める ・地区の訓練に参加してもらう ・プールの水を活用	—	—
	地域のイベント情報を中学校へ	・全てのイベント情報 ・連合会でまとめて ・一覧表で中学校へ	—	—
	防災交流会	・4年ぶりに開催する ・防災WSをやるなど ・名称が悪い(生徒から)	—	—
	回覧板への協力	・耐震改修 街頭消火器PR	—	—

防災“も”まちづくり
アクションプログラム
が実現できるように
頑張るぞよ！



■これが各研究室の「アクションプログラム」だ！



防災対策室は、「Tell（伝えること）」「Long Time が必要なこと」「防災に必要とするもの」の3つに分けて考えました。
「Tell」では、感震ブレーカーなどについて学校や自治会の掲示板に貼る、回覧板で回す「ポスター」などを作るようになりました。「Long Time」つまり時間のかかることについては、例えばブロック塀の危険性を説明して補強してもらうなどの取組をしたいと思います。「防災に必要とするもの」は、消火器を目立たせる、防災倉庫をつける、公衆トイレを増やすなどの意見が出ました。

研究室	実施事項	現在	松林中学校卒業	高校卒業
防災対策室	移動式ホース格納箱をみんなに伝える	学校内で集会のようなものを開く（地域の人も呼ぶ）	高校の内で行う市とかのボランティアに参加してみたり	自治会、ボランティア
	ポスターを書く	防災の意識を高めるためのポスターを書く ・学校内や自治会の掲示板に貼る ・回覧板にはさんでもらう	生徒会に引き継いでもらう	—
	防災意識を高めるために講義を開く	学年集会等で、発表やお知らせをして、意識を高めてもらう	—	公民館のところとかで、そういう系統の講習を
	公園を増やす	まちを歩いて、必要な理由を探し、それを市に伝える	生徒会で引き継いでもらう	—
	ブロック塀の補強	・ボランティアを集める ・集まった人でまち歩き ・見つけたら持ち主に説明 ・持ち主が補強（業者へ？）	—	—
	井戸を掘る	井戸を掘る業者をお願いする（公園）（避難所）	—	—
	道幅を広げる	まちを歩いて、広げなければいけない理由を探し、それを市に伝える	生徒会に引き継いでもらう	—
	消火器を目立たせる	ボランティアで消火器を赤く染める	—	—
	目立つところに消火器等を置く	市に訴える 「お願いします！ うちの近くだと消火器目立たないんで！！ 公園とか！！ に置きましょう！ そうしましょう！ね？」	—	—
	公園に防災倉庫をつける	市役所などに交渉start！ ・防災倉庫のない公園を把握 ・防災倉庫に必要な物をそろえる ・防災倉庫の建設ボランティア？（協力して作る）	時間がかかる… 作る期間（ボランティアは全4回ぐらいのお手伝い、あとはほとんど業者さん？）	・完成 ・使い方等回覧板などで説明
	公衆トイレを置く（増やす）	—	—	—

■これが各研究室の「アクションプログラム」だ！

まちづくり推進室は、「景観マップ」の作成から色々と展開していけるようにまとめました。まず、1年生がワークショップで作成したマップを引き継いで、道徳の授業などで「景観マップ」を作成します。そして、2年生がその景観マップで良い場所に「フォトスポット」として看板や印をつけます。その中で、消火器の場所の確認も行い、使い方を看板に書いたりします。

毎年、景観マップやフォトスポットは、見直していき、看板には、地域のお祭りや身近なことについても書けるようなれば良いと思います。



地域計画室は、中学生生徒のボランティアを集めて、道に落ちている木や石などを拾い、安全な道にする「地域で道路をパトロール」を実施します。

また、消火器や移動式ホースの使い方を防災交流会などで教えてもらい、教えてもらった人の中でリーダーを決めて、リーダーがさらに他の人に広めて、消火器や移動式ホースの使い方などを広めていけるような仕組みができればと思います。高校卒業のころには、空き家の活用なども進んでいると良いと思います。



研究室	実施事項	現在	松林中学校卒業	高校卒業
地域計画室	地域で道路パトロール！	道に落ちている木や石などをひろい、安全な道にする 中学生生徒のボランティアを集め息抜きをかねて行う	地域の方にも、手伝ってもらい、行えるといい	—
	消火器や移動式ホースなどの使い方	使い方を防災交流会で教えてもらう ↓ その中でリーダーを決める ↓ リーダーが他の人に伝える	—	—



地域福祉室は、「とにかく備えること」「家族などと災害時の行動について話し合うこと」「地域の活動に参加すること」「要援護者でも安全に避難できるまちづくり」を行います。

現在から、近所の人にあったら挨拶をして、交流を深めたり、避難訓練への参加率を高めるために声を掛け合ったりしていきます。

2～3年以降では、デコボコしているジャリ道や歩きにくい道路の整備や移動しにくい階段にスロープをつけるなどの取組も実現できるようにしたいと思います。

研究室	実施事項	現在	松林中学校卒業	高校卒業
地域福祉室	とにかく備える！！	家族と災害時の行動を細かく話し合う	シュミレーションを実際にする 防災リュックをつくる	近所の方と災害時の行動を話し合う
	地域の活動に参加しよう	地域の危険な場所を確認する	家族の中で話し合いをする	地域の防災活動などに参加する
	要援護者でも安全に避難できるまちづくり	・まち歩きをすることで要援護者が避難する際の課題や改善策を考える ・要援護者の方が日頃から不安に思うことや、避難する際の課題について聞く ・日頃から助け合う関係づくり	—	バリアフリー化
	道路の整備	デコボコしていて歩きにくい場所などを整備	周囲から(みんなの)声を聞き、歩きにくい場所を探す	→整備する
	スロープをつける	階段の所などにスロープをつける	時間をかけてやる	—
	障害者の方を助ける	障害の種類や、具体的なつきそいの方を知る	障がい者の方にお話をうかがう(日々不便なこと・助けてほしいこと)	実際に障がい者の方も含めた防災訓練をする
	ご近所さんと接する中でわかることがある	ご近所の人たちに会ったら、あいさつをする 自分が住んでいるところの周囲に高齢者や障がい者がいることを知ろう(日頃のあいさつをする中でわかる範囲で)	—	—
	避難訓練の参加率をあげる	回覧板のみならず、近所での声かけ、Webやメールによる声かけをする また、学校全体としても参加	訓練に参加した人々が参加できなかった人にも内容を伝える 教える 要援護者も対象とした訓練内容の工夫	様々な工夫を継続的に…
	全年代が助かる防災	色々な年代の防災に対する意見を聞き、それぞれが相手を気遣えるようになってもらう	地域内でのつながりを強める	—